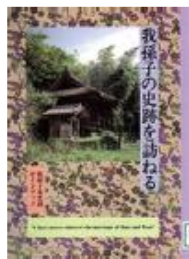


2. 我孫子にゆかりの人々

書 名	著 者	出版社	刊年	資料番号
我孫子市史研究 第4号	我孫子市教育委員会 市史編さん室／編	我孫子市教育委員会	1979	117387229
4号特集は「旧我孫子町のあゆみ」。旧我孫子町に関する様々なテーマの論文を収録。地名、災害、行商…。約660ページという厚さの中に、当時の市民による地域史研究運動の隆盛が感じられます。				
我孫子市史研究 第13号	我孫子市教育委員会 市史編さん室／編	我孫子市教育委員会	1989	117386897
我孫子の史跡を訪ねる	我孫子市教育委員会 ／編	我孫子市教育委員会	1995	117859441
「時は流れて歴史となり 時を刻んで文化が生まれる（本文から）」。手賀沼に面した我孫子には、先史時代から現代まで数多くの史跡が残されています。それらの史跡を季節の移り変わりとともに、地図や写真、当時のエピソードなども交えて紹介。史跡にまつわるゆかりの人々を紹介しています。				
あびこむかしむかし	古 谷 治	湖畔情報社	1967	117943753
あびこ風土記	古 谷 治	北総郷土研究会	1973	117378643
我孫子のなりたちや地名の由来、地域のくらしを紹介した本。郷土のあけぼのから、文学の里、まちの社寺等、随所に写真や図があり、中学生にも理解しやすく書かれています。巻末に我孫子市全図が付いています。（地図は刊行当時のものです）「あびこむかしむかし」の改訂版。				
我孫子人物誌	野 口 澄夫／編著	文芸社	2011	117912559
明治・大正・昭和の頃、我孫子に住んだ著名人14人と我孫子ゴルフクラブを紹介する。各人物の功績や一生を知ることができる人物誌。今も残る風景や史跡の絵・写真が掲載しておりガイドブックにもなっています。				
「我孫子市」あびこ人物事典		C i t i a	2002	111694152
近年我孫子市に住む人々を、アート、カルチャー、フードの3つの分野に分けて紹介しています。「鉄造形家」「江戸神輿御輿師」「日本刺繍師」「コーヒー焙煎職人」など、訪ねてみたくなる職人ばかりです。				
あびこガイド余話	野 口 澄夫／編著	野 口 澄夫	2000	111386497
あびこガイド余話 続	野 口 澄夫／編著	野 口 澄夫	2001	117314832
あびこガイド余話 続続	野 口 澄夫／編著	野 口 澄夫	2004	111691092
あびこガイド余話 続続続	野 口 澄夫／編著	野 口 澄夫	2006	117792706
あびこガイド余話 続続続続	野 口 澄夫／編著	野 口 澄夫	2009	117867640
小：学習図鑑ふるさと手賀沼 第8版	「学習図鑑ふるさと手賀沼」編集委員会／編	我孫子市教育委員会	2021	118181127
市内の小学校での学習のためにつくられた本。手賀沼周辺の自然環境、歴史、文化、水質浄化の取組みについて写真や図を多く用いて分かりやすくまとめています。植物、動物、歴史・社会・文化の項目別索引、「あびこ史跡まっぷ」付き。ゆかりの人々については、第Ⅲ章の5文化を育てた人々で紹介。				
大正期我孫子在住の作家たち	兵 藤 純二	我孫子の文化を守る会	1979	117484050
大正期我孫子にゆかりのある文人たちの、我孫子を訪れた経緯、我孫子での生活、そして我孫子を離れた状況が様々な資料を基に論じられています。当時の作家の住居図もあり便利です。「我孫子市史研究第四号」に掲載された論文を1冊にまとめたものです。				
手賀沼と文人	秋 谷 半七／編	崙書房	1978	117417667
我孫子で生まれ育った著者が、手賀沼の自然と生活、そこで過ごした文人たちについて記した1冊。大正時代の我孫子や手賀沼の様子、文人たちの生活が身近に感じられます。著者とバーナード・リーチや志賀直哉とのエピソードも収録。				

書 名	著 者	出版社	刊年	資料番号
手賀沼周辺を訪ねる	我孫子市史研究センター／編	崙書房	1990	117416352
手賀沼に関わる事項―歴史、遺跡、水害、祭りと芸能、漁業の歴史、動物・植物・鳥と手賀沼と手賀沼周辺（5市3町一当時）の史跡、文化財を100ヶ所ほど紹介。浄化についても触れていて、写真・図表等も付いています。手賀沼周辺の史跡にまつわるゆかりの人々を紹介。				
手賀沼読本	流山市立博物館友の会／編	流山市立博物館友の会	1991	117448906
手賀沼を25のテーマで詳しく紹介した本。手賀沼を核に、人々が行き交う様子や地理、歴史、沼の生態系等が書かれています。手賀沼歴史年表や手賀沼文献目録が付いています。				
ふるさとあびこ（改訂版）	中村 脩	湖畔情報社	1982	117353442
我孫子市の歴史に関する基本的資料の1つ。年代順にコンパクトにまとめられています。我孫子の歴史、白樺派等ゆかりのある文学者たち、字名の由来、手賀沼の開拓、明治期以降の年表等について書かれています。北の鎌倉の項でゆかりの人々を紹介。				
小：ふるさと我孫子の先人たち 改訂増補版	我孫子市教育委員会教育総務部指導課／編集	我孫子市教育委員会	2016	118059899
我孫子にゆかりの先人たちについて、カラーイラストで紹介しています。市内の中学生向けの副読本として作成されました。（一般市民への配布は行っておりません。図書館では貸出用を複冊ご用意しています。ご利用ください。）				



『我孫子の史跡を訪ねる』



『手賀沼と文人』



『あびこ人物事典』



『ふるさと我孫子の先人たち』

我孫子市の歴史をひもとくと、そこには多くの学者・文人達の足跡が記されています。
 明治時代にはすぐれた科学者・文化人がこの地で育ち、多方面で活躍しました。
 大正時代になると、雑誌「白樺」の同人をはじめ、多くの文人・芸術家が手賀沼周辺の自然に惹かれてこの地に居を構え、創作活動を行ないました。
 我孫子市の文化はこのような人々とともに育まれてきました。市民図書館(アビスタ本館)郷土コーナーには、我孫子市にゆかりのある人々の著作と研究書等を集めてあります。

岡田 武松 Okada, Takematsu(1874～1956) 気象学者。布佐に生まれる。日本の気象観測事業の確立に貢献した気象学界のパイオニアである。	加瀬 完 Kase, Kan(1910～1995) 教育者。政治家。昭和13年我孫子第二小学校校長就任。以後市内小中学校校長を歴任。後に参議院議員となり、教育の充実に尽力する。
嘉納 治五郎 Kano, Jigoro(1860～1938) 柔道家。教育家。天神山に別荘を建てる。講道館を創設し、柔道の発展に貢献する。	志賀 直哉 Shiga, Naoya(1883～1971) 作家。大正4年から12年までに弁天山在住。雑誌「白樺」の創刊に参加。「小説の神様」とも称される。
坂西 志保 Sakanishi, Shiho(1896～1976) 評論家。杉村楚人冠邸内に一時期過ごす。終戦後、国家公安委員、放送番組向上委員長を務める。	杉村 楚人冠 Sugimura, Sojinkan(1872～1945) ジャーナリスト。大正13年から我孫子に永住。随筆「湖畔吟」などで、手賀沼周辺を全国に紹介。俳句結社湖畔吟社を作るなど、地元の文化向上に努めた。
滝井 孝作 Takii, Kosaku(1894～1984) 作家。志賀直哉にすすめられ、大正11年から12年にかけて我孫子に移り住む。この間に代表作「無限抱擁」を執筆。	田口 静 Taguchi, Shizuka(1907～1977) 医師。湖北に生まれる。当時無医村だったこの地区に医院を開業。地域住民に「赤ひげ先生」と慕われ、献身的な医療活動を行なった。
血脇 守之助 Chiwaki, Morinosuke(1870～1947) 歯科医師。我孫子に生まれる。日本の歯科医学の発展に貢献し、後進を育てた。野口英世もその門弟のひとり。	中 勘助 Naka, Kansuke(1885～1965) 作家。大正9年から11年まで白山在住。幼年時代の思い出をもとにした「銀の匙」で世に認められる。
中野 治房 Nakano, Harufusa(1883～1973) 植物学者。中里に生まれる。手賀沼も含めた湖沼の植物研究から出発し、幅広い研究活動を展開。大正9年に「湖北村誌」を発刊。	バーナード・リーチ Bernard Leach(1887～1979) イギリスの著名な陶芸家。柳宗悦らの民芸運動に参加。我孫子の柳邸に窯を開き、大正5年～大正8年の間、作陶に励んだ。
武者小路 実篤 Mushanokoji, Saneatsu(1885～1976) 作家。大正5年から7年まで根戸在住。雑誌「白樺」の創刊に参加。白樺派の代表的存在となる。	柳 兼子 Yanagi, Kaneko(1892～1984) 声楽家。大正3年柳宗悦と結婚し10年まで我孫子に住む。晩年まで声楽の教師を務める傍ら、数々の独唱会・演奏会を開き、海外でも絶賛を博した。その歌声は「日本の声楽の母」と称えられている。
柳 宗悦 Yanagi, Muneyosi(1889～1961) 民芸研究家。大正3年から10年まで縁在住。雑誌「白樺」の創刊に参加。日本民芸運動の創始者。日本民藝館を設立。	柳田 國男 Yanagita, Kunio(1876～1962) 民俗学者。布佐に実家の松岡家があり、青少年時代によくこの地を訪れた。日本民俗学の創始者。
山下 清 Yamashita, Kiyoshi(1922～1971) 画家。昭和16年頃から昭和21年頃まで、駅弁屋「弥生軒」のもとに身を寄せ、雑用に従事しながら暮らしていた。色鮮やかな貼り絵で有名。放浪の画家と呼ばれる。	